

橋本イニシアチブとは

- デンバーサミットでの橋本首相の発言「日本はこれまで日本が経験してきたことを踏まえて寄生虫対策に寄与したい」(国際寄生虫対策)
- バーミンガムサミットでの提案

学校保健

医療教育機関の充実

- マヒドン大学(タイ)
- 野口英世記念研究所(ガーナ)
- ケニア国立医学研究所(ケニア)



NTDsと言う概念形成による、グローバルリスクの認識強化

橋本イニシアチブのバックグラウンド とその意義

- 日本の公衆衛生の向上による感染症対策の有効性
- ワクチンの有効な使用
- 公衆衛生教育の有効性



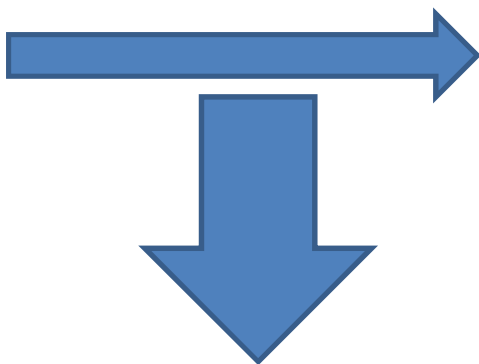
- ・医薬品供与によらない感染症対策の有効性の実証
- ・感染症対策における医療技術の向上の重要性の証明
- ・ワンヘルス(グローバルヘルスが保たれなければ個々の国の健康も保たれない。)

橋本イニシアチブの発展

- 国際寄生虫対策から、国際感染症対策へ
- グローバルヘルス・セキュリティから、バイオセキュリティ、グローバルセキュリティへ

<背景>

9. 11事件
炭疽菌事件
経済テロ



同時進行・多因子不可分の関係(生物学的因子、犯罪学的因子、経済学的因子、社会科学的因子)

学際的研究の必要性

私共のグループでは、これまで竹内先生をリーダーとして、学術フロンティア事業というもののなかで、グローバルヘルスセキュリティスタディ、という形で、世界規模の健康問題として、主に感染症及び環境汚染を取り上げ、2003年から活動を行ってきました。

この5年計画の最終年度より、特に感染症の問題に絞って活動を進め、昨年度よりバイオセキュリティ、すなわち生物学的脅威に対する社会防衛、というのをテーマに掲げ、戦略的研究基盤形成支援事業、として再スタートしておりますが、

この枠組みの中で、バイオセキュリティの研究基盤、教育基盤を築くべく活動していましたが、さらにここに文部科学省の安全安心科学技術プロジェクトが加わって、ネットワーク基盤の形成、というテーマが入りました。

これによって、G-SECの中に、バイオテロ対策・バイオセキュリティにおける総合的なプラットフォームを構成していこう、というのが我々の総合戦略となっております。(グローバルヘルスセキュリティにおける総合戦略の必要性)

橋本イニシアチブ概要まとめ

- 橋本イニシアチブでは、日本の経験を生かし、医学のみならず、公衆衛生学、社会学学際的な努力により、発展途上国の寄生虫症などの感染症対策の向上をはかり、以てグローバルヘルス全体の向上へ導くことに成功した。
- グローバルヘルス全体の向上は発展途上国のみならず、海外からの輸入感染症の防御を向上せしめ、日本自身の感染症対策にも有効に働いた。